

# 同仁会。泉州保健医薬研究所 87人の新入職員が入職



新入職員のみなさん

3月31日〜4月2日、新入職員オリエンテーションが開催されました。初日は、緊張した雰囲気の中、穴井専務から新たな同仁会の仲間への歓迎の挨拶。民医連・同仁会の歴史と理念を学ぶ貴重な講義を行っていただきました。

その後、「就業規則」と「電子カルテの取り扱い」、個人情報保護の観点からLINEやFacebookの利用時の注意や危険性についても説明。午後からの就職式では、来賓の方々の挨拶の後、新入職員を代表して片上大輔医師が「長い時間をかけて先輩方が築き上げた英知をしっかりと学んでいきたい」との決意表明に新入職員一同引き締まる時間となりました。

今年は、新病院オリエンテーションの日程と重なり、新入職員も移転作業に関わる事ができました。移転当日の4月1日、運搬・病棟内誘導・ルート誘導・荷物片付けのグループに分かれ各持場へ、途中からの雨にも負けず一生懸命頑張りました。



大仙公園での交流会

参加した新入職員からは「耳原総合病院の歴史の1ページを目の当たりにし感動した。患者さまの命を第一にスタッフが尽力されており、自分も一員となれたよつで嬉しく思った」「病院職員の連携がすごいなと感じた」「患者さまが新しい病棟を見て笑顔になっていたので嬉しかった」など

最終日は、医療・介護現場で働く者として必要な知識である「医療安全」と「感染対策」について受講。また、共同のパートナーとしての「健康友の会」の紹介と入会の訴えも行われました。午後は、新入職員に向けた「社会人としてのマナーと言葉遣い」について接遇講師の高橋美幸氏に講習をしていただきました。その後、大仙公園まで歩き、北出入ポートレーナーの指導のもとゲームを通じて交流することができました。しながら打ち解けることができました。オリエンテーション後は職場に配属され勤務がスタートします。新しい環境で不安や悩みも出てくるかと思いますが、同期の仲間との「つながり」を大切に、民医連・同仁会の職員として大きな成長を期待しています。

▼荷物片付け班



▶誘導班



▲運搬班

## シリーズ 現場からの視点

事例 その2

以前から、一人暮らしや高齢者の友の会員さんから、ちょっと困った時に「頼れる身内が近くにいない」「何度も頼むのはボランティアさんに気がつかう」「信頼して頼れるところがない」と不安の声が寄せられていました。また介護保険では制約上できない事が多く「何か介護保険の隙間を埋める助け合いができないか」等の介護現場からの切実な声も上がる中、昨年秋よりワンコイン生活支援「助っ人隊」に取り組み事になりました。友の会会員さんやケアマネージャーさんからも「助っ人」が必要そうな方に声をかけて頂き、約半年間で既に17人の方が利用されています。

## 「あきらめていたお墓参りに行けた」「もしもの時にも安心」の喜びの声！

### ～ワンコイン「助っ人隊」利用で～

支える人も、支えられる人も生き生きとこの活動を通して、支えられる側だけでなく「助っ人」する側も元気をもちています。週1回お庭の草引きに入っている「助っ人」さんからは、「この活動をするようになり自分が生き返った。人に喜ばれ役に立つ事の喜びを改めて感じました。毎週とても楽しみに訪問させてもらっています」と感動の報告がありました。

利用された方の喜びの声から Aさん／ご先祖のお墓参りに行きたかったが、飼い猫の世話が気になり墓参りはあきらめていたとの一人暮らしのAさん。助っ人さんが猫の餌やりを引き受け、一泊二日で先祖の墓参りに出かけることができました。大変感謝されました。 Bさん／印刷済みの年賀ハガキを使ったとしても宛名を書くことができないうちのお話から、助っ人さんが

大坪 笑子